

M I F F の変貌と方向

⑤

2018年は新会場 10万㎡で開催 年間2900億円家具輸出

初日の8日、展示会場内でオープニングセレモニーがあった。M I F Fの創設者のダド・タンチン・ホァ氏が冒頭に挨拶し、メイン会場と第2会場のMECCに合わせて前年比12%増の543社が出展した。また、2018年はMECCの近くに新展示場M I T E C C約10万㎡が完成、ここにM I F F出展社の85%を当て、残りを従来のP W T C会場で展示すると語った。

また、フェアの実施会社UBMアジアのアセアンビジネス・マネージングディレクターは「23年間フェアを継続してきた。今日の規模に成長した。今年は前年比で23%増の6000人のバイヤー、140カ国から2万7000人の入場を見込んでいる。当社は他にも貿易見本市を開催しているが、2017年の中間時点でローカルビジネス見込みを1億6800万リキットみている」

ここでダット・セリ・マシュ・ヒョン工業担当大臣が「M I F Fの努力で価値のある土台を作った。グローバルの世界を繋いで特に海外から2016年は前年比4・2%アップの95億3000万MR(約2859億円)の家具輸出をみた。品質が良く、160カ国に出荷した。競争力のある価格と共に、アジアでポテンシャルのある国だと思っている」

「デザインとイノベーションが向上し、ラバーウッドは20年前は家具材ではなかったが、いまでは大きな需要を生んできた。現在は不足するほど家具の主用材となってきた。そのため代替材としてパームオイルの木を家具用にできないか研究、

同時にラバーウッドの植林を考えている。今世界はネット時代になった。デジタル経済はアリババなどと組み、オンラインビジネスで生産性の向上や展示会の成功に結びつけていく」と語った。

の建設や技術革新が欠かせないが、これに先駆けてマレーシアのカントリースタイルや企業のブランドディングが不可欠となってきた。

(続く 長島)



ダド・タンチン・ホァ氏



オープニングセレモニー